

静岡新聞 2023年11月29日付

論壇

東京大名誉教授(国際経済学)

伊藤 元重

ニューヨーク市の最低賃金は時給で15ドルである。1日8時間、1カ月25日働いて、1ドル1150円で換算すれば、月給換算で45万円という計算となる。最低賃金でさえ、日本の大卒初任給の倍以上になる計算だ。ちなみに、静岡県
の最低賃金は984円である。同じように1日8時間、1カ月25日の労働で換算すると、月給換算でおおよそ20万円となる。ニューヨークの約45%つまり半分以下になる。そのニューヨークでは、ラーメン1杯3千円という値段がついている。日本からの観光客はその値段の高さに驚いているが、値段の高いものはラーメンだけではない。全てのものが日本人にとっては高すぎるのだ。ただ、その3千円のラーメンも、1ドル1150円でドル換算すれば20ドルになる。最低賃金15ドルの国で20

賃金も物価も 全て安い日本

ドルのラーメンは特に高いものではない。

賃金も含めて、日本は全てが安すぎる。米国との比較だけを紹介したが、欧州と比較しても同じような結果が出てくる。この問題は、円が安すぎることに起因しているのだろうか。確かに、150円と
いうのはあまりにも円安ではある。

そこで1ドル110円というレートで計算し直してみよう。少し前まではこの水準で円ドルレートは安定していた。円高でも円安でもない水準と言える。これで計算し直すと、ニューヨーク市の最低賃金の月給換算値は、33万円となる。20ドルのラーメンは2200円となる。

1500円の世界に比べると大分ましにはなったが、1100円の世界でも、ニューヨークは賃金も物価も日本に比べて相当高くなっている。別の言い方をすれば、日本は全てが安くなってしまった。1500円前後のレートではそれが極端な形で見えているが、1100円まで為替レートを修正しても依然として「安い日本」であり続ける。

このような流れの背後には、日本がデフレを経験したことがある。2000年から2020年にかけての20年の

間に、日本の物価や賃金は全く変化をしなかった。一方で米国では、この20年間、毎年平均して2%程度、物価や賃金が上昇していた。日米で2%の格差があった。大した違いではないように見えるが、20年の複利で累計すると48%にもなってしまう。20年間でそれだけ日米の所得は乖離してしまっただけだ。それに加えて、円ドルレートは80円前後から150円にまで下がっている。賃金や物価の格差と円レートの変化が複合して、本当に「安い日本」になってしまった。

それでも低い賃金の日本人が安い日本の物を購入するだけなら問題ない。しかし、石油から食料までさまざまな物を海外に依存している。そうした輸入品は全て日本人には高くなっている。これが日本を貧しくしている。

では、どうしたら良いのか。今、進行している極端な円安が是正されれば、安い日本も少しは修正される。ただ、為替レートを政策的に変えるのは容易なことではない。それよりも、20年も所得が上らなかつたデフレの状況を是正する必要がある。足元で賃金が少し上昇する気配を見せているが、こうした動きを大切に
する必要があるので。